

子どもの居場所づくりを 知っていますか？

子どもの居場所って
いろいろあるんだ！
生きづらさを抱える子？
そう言えば、…



気になったら、ぜひ、読んでみて！



入間市教育委員会
家庭教育応援通信
2025年11月



こんにちは
こちらは入間市教育委員会です

この家庭教育応援通信では
子育てに必要な情報を
皆様にお伝えしています。

今回は、
子どもの居場所づくり
についてお伝えしていきます。



入間市マスコットキャラクター
「いるティー」

知っていますか「居場所づくり」

「子どもの居場所づくり」とは、家でも学校でもなく、子どもが安心して過ごせる第三の居場所をつくろうとする活動です。

その場に足を運んだり、周りの方に紹介したりしていただければ幸いです。

まずは、「居場所づくり」に至るまでの若者支援の歴史を振り返ってみましょう。

1950～60年代の若者支援

この頃は、まだ高校・大学への進学が珍しい時代でした。そこで、勤労青年の一般教養の向上、職業、家事などについての知識・技能の習得を目的として、青年学級が自治体によって開設されました。

公民館などで若者が進んで学ぶことができるよう支援したのです。



1970～80年代の支援の変化

この頃に、高校、大学への進学率が急上昇しました。同時に、都市化、核家族化による子どもの体験不足が問題視され、支援の対象が若者から小中学生へと変わります。

内容も少年自然の家での団体活動といった、大人が提供するプログラムが中心になります。



不登校やひきこもりの問題

1950年代後半から不登校が社会問題となり、1990年代に大きく増えて、成人の「ひきこもり」が報じられます。



学校復帰を第一としていた文部科学省も、やがて、個に応じた学びの場の整備や社会的自立に向けた支援へと方針を転換します。公的な機関の他に、フリースクールのような民間の受け入れ先も現れました。

子どもの貧困の認知と支援

2009年に政府が公表した相対的貧困率は、日本における子どもの貧困の実態とその深刻さを示すものとなりました。

すると、2012年に東京都大田区の八百屋の店主が始めた活動がきっかけで、その年のうちに「子ども食堂」が全国に広まり始めたのです。



子ども食堂が地域の拠点に

SNSの普及も後押しし、子ども食堂には、高齢者や学生、NPO、地域のボランティアなど、多様な人々が関わるようになります。

子ども食堂が、子どもたちに食事と居場所を提供すると同時に、地域交流の拠点として機能するようになり、居場所づくりのネットワークが広がりました。



生きづらさを抱える子ども

すると、不登校や貧困家庭の子どもだけでなく、生きづらさを抱えた子どもの存在が徐々に浮かび上がります。



虐待や発達障害での対人関係の困難さといった個人的な問題だけでなく、社会の変化や競争社会、自己責任の風潮といった本人を取り巻く環境が生きづらさに深く関係していることが指摘されています。

一緒にいるよ

そうした子どもは、気づいてほしいと願いながらも言葉にできず、時に、沈黙や暴力、腹痛や頭痛症状などで訴えます。

そのとき大事ななのは、「どうしたの」と聞くことよりも、「ここに一緒にいるよ」というメッセージを送り、気づいて寄り添うこと、対等なやり取りで関係性を築くことだと言われます。



生きづらさへの支援

このような背景をもとに、それぞれの子どものための「居場所」を提供する活動が広がっているのです。

居場所づくりには、物理的な「居るところ」だけでなく、心理的に安心できるところ（居られる場所・居てもいい場所）をみんなで作るという意味があるのです。



居場所づくりの工夫

このため、子どもの居場所づくりでは、支援を必要とする子どもが遠慮しないで来られるような工夫がされています。

例えば、参加者の枠をあえて明示しない（誰でも参加できる形にする）とか、活動への参加を強要しない（してもいいし、しなくてもよい）などがあります。



遊び環境の消失

近年は、原っぱがなくなり、禁止事項ばかりの公園、習い事や塾など、子どもたちの自由な遊びのための環境が失われています。

昭和の頃までは、子どもたちだけの集団で毎日遊んで、身体能力、社会性、集団規範、工夫企画する力などを身につけていました。



自由な遊び場づくり

欧州には「遊び場をデザインするのは子ども自身」という考え方の「冒険遊び場」があります。

子どもたちの本来の姿を取り戻そうと、その考え方を取り入れて、子どもが「自分の責任で自由に遊ぶ」ことを保障するための場所づくりをしている団体もあります。



学習環境の支援

経済的な問題等で、学習環境が整わない子どものための支援を行っている団体もあります。



公民館などを使って、ボランティアが子どもからの質問に答えたりする形で支援しています。成績向上のみを目指すのではなく、学習意欲を高めつつ、大人との関りを通して生き抜く力を育んでいるのです。

居場所が力に

子どもたちにこうした居場所を多く提供することで、子どもたちの自己肯定感や自己有用感を高めることができます。

居場所づくりによって、子どもたちは、良好な人間関係を築き、困難を乗り越えて前向きに生きる力を得られるのです。

自己肯定感:ありのままの自分を肯定的・好意的に受け止められる力

自己有用感:人と関わること、人の役に立つことが楽しいと感じられる力



居場所の種類

子どもの居場所の代表的なものとしては、「子ども食堂」「学習支援」「プレーパーク」などがあります。

子ども食堂：無料または安価でご飯を食べられるところ。地域との繋がりがや信頼できる大人と出会える場でもあります。



居場所の種類

学習支援：学習習慣の定着、基礎学力向上等のための自主学習の支援を行います。小学生対象のところが多いです。



プレーパーク：子どもたちが自ら考え、自由に遊び、くつろぐことができる場です。大人は見守る立場になります。



居場所の種類

また、シンプルに子どものために場所を開放して、自分の好きなことをして過ごせるようにしているところもあります。

最近では、1つの団体が種類の異なる居場所を企画提供したり、学習支援と子ども食堂を同時に開催するなど複合的に行う団体も増えてきています。



入間市の活動団体

入間市社会福祉協議会によると、市内には約35団体の子どもの居場所があり、地域の方々が子どもたちのための活動を行っています。

そのうちの31団体が「こども食堂ネットワークいるま」という団体に所属しています。事務局として入間市社会福祉協議会が居場所づくりの相談に応じています。

活動団体について

活動日は、月に1回や毎週1回など、団体によって異なります。開催日や開催場所は各団体のサイト等で確認してください。団体によっては事前の予約が必要です。

「こども食堂ネットワークいるま」や「こども応援ネットワーク埼玉」のホームページに活動団体の紹介ページがあります。



こども応援
ネットワーク埼玉

みんなで子どもの育ちの支援を

子どもの居場所づくりは、信頼できる大人と出会い、様々な活動の機会を得て、全ての子どもが、幸せな状態で成長し活躍して行けるようにするための社会活動です。

周りに支援が必要な子はいませんか？

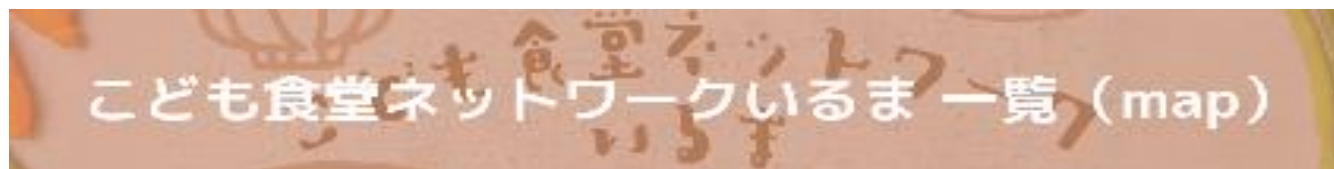
地域の子ども支援に参加してみませんか？



こども食堂ネットワークいるま

<https://irumakodomoshokudo.com/>

↑ ホームページのURLです
(TOP > 活動団体一覧 & MAP)



こども応援ネットワーク埼玉

<https://kodomoouen.pref.saitama.lg.jp/>

↑ ホームページのURLです

(TOP>探す>こどもの居場所マップ)

こども応援
ネットワーク埼玉



今回は
子どもの居場所づくりについて
お伝えしました。
気になったことについて
さらに調べてみては
どうでしょうか。



入間市マスコットキャラクター
「いるティー」